米衛連だより

発　行　令和８年２月１日
米沢市衛生組合連合会

青空のもとで開催！よねざわ環境フェス２０２５

米沢市では、海洋ごみの流出削減の呼びかけや、環境問題について楽しみながら考えるきっかけづくりとして、環境フェスを開催しています。

今年度は9月27日に伝国の杜エントランスホール、大会議室、伝国の杜前広場を会場に、22団体が30の展示・体験ブースを設置しました。

当連合会も、女性部を中心に作成した活動報告の展示と、体成分分析装置・運動機能分析装置の体験コーナーを設けました。

体成分分析装置は体成分や筋肉量、内臓脂肪レベルなどを計測、運動機能分析装置は運動機能の測定を行うもので、体験した約５００人の健康管理や健診の促進を図りました。

また、イベントステージでは、愛の武将隊と一緒に、楽しみながら環境問題について考え、学べる「環境クイズ大会」が開催され、子どもから大人まで幅広い年代の参加者34人と観覧した来場者が一緒に環境問題を学んでいました。

クイズは、米沢の身近な環境問題から地球全体の問題まで幅広く扱われ、日常生活の中で環境について考えるきっかけとなる内容でした。

そのほかにも、リユースの促進事業でもある子ども服おさがり交換会やスポーツゴミ拾い、ごみ収集車の試乗体験、水車の工作体験、海岸漂着物を利用した貝殻キーホルダー作り、脱炭素先行地域づくり事業の展示など、環境問題について知り、考えるきっかけとなる体験や展示がたくさん出展されました。

当連合会では、今後もこうしたイベントに積極的に参加し、連合会の取り組みや意義を広く周知してまいります。

各団体の出展内容などより詳しい内容を市HPで紹介しています

米衛連だより発行によせて

米沢市衛生組合連合会
会長　渡部一雄

市民の皆様には、日頃より公衆衛生全般にわたり御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当連合会では、役員が幅広い知見を得られるよう、市外視察や調理実習など、体験型研修を積極的に実施しています。

一方で、市民の皆様には、楽しみながら日常に取り入れやすい活動の普及にも取り組んでおり、今年度の指導者研修会では、フードロス削減のため捨てられがちな野菜を活用する工夫など、家庭でも気軽に実践できる内容としました。東部支部でも「かみかみ運動」として、やや硬めの豆やナッツ類を料理に取り入れ、よく噛んで食べることの大切さを学ぶ取り組みを広めており、こうした内容を各支部が取り組み、市民の皆様にも広がっていくことを期待しています。

また、活動の周知も積極的に行っており、昨年9月の環境フェスでは来場された多くの方に当連合会の活動を紹介させていただきました。そのほか当連合会のブースには、体成分分析や筋力測定などの体験コーナーも併設し、健診の早期受診の推進なども行ったところです。

今後も、役員・会員一同が一丸となり、市民の皆様と共に、公衆衛生の向上と地域の健康づくりに努めてまいります。引き続き、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

発行年月日／令和８年２月１日　発行／米沢市衛生組合連合会　事務局・米沢市金池五丁目二番二十五号　米沢市役所市民環境部環境課内　０２３８・２２・５１１１（内線３３０４）

ご注意ください！リチウムイオン電池

近年、全国的にリチウムイオン電池使用製品の発煙・発火事故が多発しております。

適正に分別されず、ごみ収集車や処理施設内で発煙・発火し火災が発生すると、ごみ収集及び処理に重大な影響を及ぼします。

米沢市では、リチウムイオン電池やモバイルバッテリー等充電式製品は有害ごみに分類しており、膨らんだものでも収集は行っています。ご不明な点は市環境課までお問い合わせください。

詳しくは市HPで紹介しています

ごみ収集所の適正な管理をお願いします

ごみ収集所内に、分別間違いなどで未回収のごみが残ったままになっていると、収集作業員が衛生的な危険にさらされるだけでなく、クマなどの野生動物を誘引するおそれもあります。ごみ収集所は清潔な状態を維持するとともに、収集所ごとのごみ出しルールを守りましょう。

米衛連役員

会長　渡部一雄（窪田）
副会長　岡村康郎（南原）
〃　小林秀一（南部）
〃　齊藤麗子（松川）
〃　綿貫藤雄（中部）
監事　高橋利和（西部）
〃　太田智明（上郷）

※米衛連だより編集委員は右記役員が兼ねております。

受賞者のご紹介

～受賞者の皆様、誠におめでとうございます～

市長感謝状（個人２名）
後藤寛雄（上郷）
鑓水妙子（万世）

会長表彰（個人３名）
佐藤一彦（北部）
佐藤隆市（窪田）
池田宏幸（西部）
（敬称略）

長年にわたり、衛生組合連合会の活動にご尽力いただいた方々を表彰しております。

米衛連の事業

米衛連では、次のような事業に取り組んでいます。

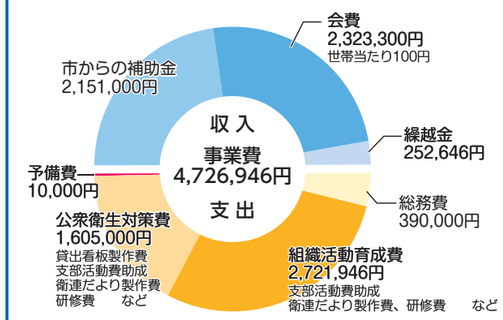
1　指導者の育成と組織の強化
（1）研修会を開催し地区指導者の育成を推進
（2）各種大会、研修会への参加
（3）各支部へ組織育成のための助成
（4）広報紙による啓蒙活動

2　支部活動への助成
研修会、環境美化運動、健康教室及び環境保全等の支部活動推進のための助成

市HPで詳細な事業や過去の衛連だよりを紹介しています

3　実践活動
（1）環境衛生に関すること
①ペット（犬、猫）の排泄物の適正処理及び飼い主のモラル向上のための指導
②ごみ収集所の適正管理
③不法投棄防止の啓発
④地区の美化活動の実施
⑤地球温暖化防止活動の実践・啓発
⑥ごみの減量及び再資源化への協力
⑦きれいな川で住みよいふるさと運動への参加
（2）保健衛生に関すること
各種健診の受診啓発

〈令和７年度事業費の内訳〉



※納入いただいた組合費はこのように活用されています。

UD FONT　見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

◇視察研修◇

令和7年8月5日に視察研修を実施し、プラスチック製品の資源化に取り組む岩沼東部環境センターを見学しました。米沢市ではプラスチック製容器包装のみを回収していますが、同施設では種類を問わず一括回収しています。

はじめに、事務局から米沢市のプラスチック処理状況と今後の課題について説明を受け、続いて施設内を視察しました。施設ではAIによる自動分別なども導入されており、管理体制や処理量、余熱による電力売買に関する質問のほか、千代田クリーンセンターとの違いを踏まえた意見交換も活発に行われました。

施設内で稼働するAIロボットの説明

きれいな川で住みよいふるさと運動

県および市では、県民河川・海岸愛護デー（令和7年は7月6日）に合わせ、「きれいな川で住みよいふるさと運動」として河川敷の一斉清掃を実施しており、当連合会も市内各地で取り組みました。

今年度は、万里橋から花沢大橋まで、松ヶ根橋から米坂線鉄橋までの河川敷を重点清掃箇所に設定したほか、市内各地の支流や側溝などでも清掃活動を行い、約1060名が参加しました。

こうした日頃の取り組みが、川をきれいに保つだけでなく、流れや治水など本来の機能が損なわれないよう支える大切な役割を果たしています。

目指せ！健康長寿日本一のまち米沢

あなたの「歩く」と「座る」を見直そう

現代社会において、私たちの生活は便利になった反面、身体活動の機会は減少傾向にあります。しかし、健康で充実した人生を送るためには、日々の身体活動が不可欠です。人生100年時代と言われる今、健康長寿のために、「歩く」ことと「座る」ことを見直してみませんか。

1日にどのくらい歩いていますか？

健康増進の第一歩は、現在の自分の身体活動量を把握することから始まります。スマートフォンや万歩計といった身近なツールを使えば、ご自身の歩数を手軽に確認できます。

「米沢市健康長寿日本一推進プラン」では、1日7100歩を目標としています。一歩一歩の積み重ねが運動習慣の定着に繋がり、生活習慣病を減らす効果が期待できます。

〈1日の歩数平均値〉

現状値（R4）	目標値（R16）
5,578歩	7,100歩

「米沢市健康長寿日本一推進プラン」より

座りっぱなしになっていませんか？

もう1つ、気をつけたいのが「座りすぎ」です。デスクワークが中心の仕事や、テレビやスマートフォンに夢中になる時間が増えたこと、特に米沢は「車社会」のため私たちは知らず知らずのうちに「座位行動（座りっぱなしや寝たままの姿勢で過ごすこと）」が多くなっています。座りすぎによる健康リスクを避けるためには、意識的に「座る」時間を減らし、「動く」時間を増やす工夫が必要です。

このような小さな習慣が、健康的な生活習慣へと繋がり、あなたの健康寿命を延ばす力になります。

座りすぎを防ぐポイント

- 1時間に1回は立ち上がる（ごみ箱やリモコン、ティッシュなどの必要なものは遠くへ置く）
- 電話は立って話す
- 離れた駐車場に停めて歩く

効能

- 心肺機能の向上
- 血行促進・冷え性改善
- 免疫力の向上
- うつや不安症状の軽減

「捨てない調理」でおいしさも栄養もアップ！ 指導者研修会 食品ロス削減調理教室

今年度第1回となる指導者研修会を11月29日にすこやかセンターで開催し、各支部の役員36名が参加しました。

はじめに、食品ロスの現状と市の取り組みについて環境課から、また食育について健康課から説明を受けました。その後、食品ロス削減コンサルタントの佐々木麻衣氏から、「～もったいないを知恵に変える～ 食品ロス削減の家庭術」をテーマに、家庭でできる食品を無駄にしない工夫や、冷蔵庫を賢く利用した保存方法について講話がありました。講話の後には、食品ロスを減らす料理の調理実習を行い、ピーマンの種やワタもまるごと使った鶏肉の甘酢あんかけ、野菜を皮ごと使用した白和えとけんちん汁の3品を作りました。

参加者からは、食品を無駄にしない工夫を再認識できた、保存方法や賞味期限に関する新たな発見があった、普段の食事に取り入れられそうだなどの感想が寄せられました。

また、昨年度の指導者研修会でも実施した東部支部がかむことを通して健康を推進する「かみかみ運動」で使用する料理の提供もあり、各支部の活動についての情報交換も行われました。

市HPで詳しいレシピやその他事業を紹介しています

広幡支部の活動報告

支部長　清井利広

生活福祉協会とはなんの協会のことでしょう?広幡地区では平成23年度から防犯・社協・衛生の三組織を統合し、生活福祉協会を創設し活動しています。

衛生部では、公衆衛生及び環境衛生向上に関する事業を目標に掲げて活動しています。令和7年度に取り組んだ活動を紹介いたします。

今年度の計画は、ごみカレンダーの作成（収集所用）、クリーン作戦（地区全戸参加）、きれいな川で住みよいふるさと運動（地区に人員要請）、集落内ごみ収集所清掃、研修会開催、健康教室開催、ごみ収集所へ防犯ポスター掲示、協会行事（夏まつり、敬老会、文化祭）への協力などを総会で決定し現在活動中です。

また、総会で地区外からのごみ置きがある、異物混入で未回収の物がある等の話があり、何をどうすればいいのか検討した結果、今年はだれが搬入したのか分かるようにする、ごみの分別講習会開催（部員及び地区住民を対象）することを決定し実施致しました。

そのため、全戸に記名啓蒙シールを貼り付けた油性ペンの配布、ごみ袋への記名記載啓蒙（コミセンだよりへの掲載、各家庭、ごみ収集所カレンダーへ啓蒙シールの貼り付け）活動を実施致しました。

ごみ対策問題等への特効薬はありませんが、私たちは啓蒙活動等を粛々と地域内へ浸透していきたいと思い活動しています。